

# 特集 町の花「ひまわり」

夏になると、

町内を彩る「ひまわり」。

ひまわりは、町の花に制定されています。

どうして町の花となったのか、

あなたは知っていますか。

## ひまわりを育ててみよう

今年、町制施行60周年を記念して、全世界にひまわり「グッドスマイル」の種を配布しています。グッドスマイルは、種を植えてから2カ月弱で育つので、今から植えても楽しめます。家庭で育て、町をひまわりでいっぱいにしましょう。

### ひまわりの育て方 (グッドスマイル)

ひまわりは、比較的育てやすい花です。水はけのよいところで育てましょう。肥料があるなら1度あげると、育ちがよくなります。

花が咲いたら、一番大きな花を8分ほど咲いたときに切ることで、他の花に養分がいつて長持ちします。

グッドスマイルは、草丈が40～50センチなので、場所をとりません。また、他の品種に比べて花粉が少なく、鉢の大きさで成育も変わるので、室内でも小さな鉢を使って栽培できます。



### ひまわりを育てて、写真を応募しよう

8月末まで、育てたひまわりの写真を募集しています。写真は、庁舎ロビーで展示する予定です。ぜひ応募してください。

詳しくは、町ホームページをご覧ください。

☎ 総務課企画政策係 ☎ 985-4103



笑顔もひまわりも満開の写真を待っています

で義農作兵衛の話だけしていたけれど、ひまわり畑ができたからみんな喜んでくれた」と話してくれて」と、当時を振り返ります。

公園が完成した平成7年以降も、「町花の普及を続けていきたい」との思いから、毎年、公共施設にプランターを届けたり、住民の皆さんに苗の配布を行ったりしています。重松塾長も「四半世紀続いている、よそもやっていないことだから続けたい」と意欲的です。

ひまわりを広めようとするのは、町の花を知ってほしいということだけでなく、ひ



まちづくり塾 重松茂 塾長

まわりが見る人を明るく元気にする花で、多くの人に喜んでもらえるからです。町中にひまわりが広がれば、もっと町が明るく元気になるはずですよ。あなたも、見て楽しむだけでなく、育てて楽しんでみませんか。



今年、苗1,000本を育て、公民館や郵便局などに配布。「来館した人に『また今年も届いたんだね』と言ってもらえるので楽しみにしていました」と、笑顔で受け取っていました。

みんなを選んだ町の花

ひまわりを町の花として選んだのは住民の皆さんです。公民館活動の一環で普及していたこともあり、町内居住者、町出身者、中学生を対象に行ったアンケートで、1番多かった回答でした。

選ばれた理由は、先にお話した「力強い」「明るい」といった町の発展の象徴です。

暑い夏の太陽の下でも生き生きと咲くひまわりのように、町も発展していったらいいという多くの人の願いが込められています。

町の花を広める

町の花にひまわりが制定されて以後、町では、住民の皆さんに町の花を知ってもらい、美しい景観をつくろうと活動しています。その活動に協力してくれているのが、まちづくり塾の皆さんです。住民有志が塾生となり、平成3年から、「ひまわりの花いっぱい運動」を行っています。

「最初は、松前公園ができる前の場所に、ひまわりを植えたんです」と話すのは、塾長の重松茂さん。西古泉。当時、8千本のひまわりが町を彩り、多くの人を楽しませました。「バスガイドの人が、『今ま



ひよこたん池公園付近  
(中川原)



松前消防署南側、うどん茶屋北斗東側  
伊予高校東側、東古泉公民館北側  
(東古泉)

町の発展を象徴する花

町の花として、ひまわりが制定されたのは、今から25年前の平成2年3月31日です。「太陽に向かって大きくのびのびと育つ様が若々しく、力強く、明るく、健康的かつ伸びやかで、明るく希望に満ちた活力のある松前町の発展を象徴するもの」として、ひまわりが選ばれました。

暑い夏の太陽の下でも生き生きと咲くひまわりのように、町も発展していったらいいという多くの人の願いが込められています。

町の花を広める

町の花にひまわりが制定されて以後、町では、住民の皆さんに町の花を知ってもらい、美しい景観をつくろうと活動しています。その活動に協力してくれているのが、まちづくり塾の皆さんです。住民有志が塾生となり、平成3年から、「ひまわりの花いっぱい運動」を行っています。



## 町内ひまわり畑情報

7月中旬から下旬にかけて見ごろを迎えます。家族や友だちと出掛けてみてはいかがでしょうか。  
※畑は各地区が所有しているものです。畑の中には、許可なく入らないようにしましょう。

ひまわりと  
共にその1

ひまわりを  
楽しむ・広める

## 5 搾油

26年度は、  
86ℓの油を抽出

※2地区が  
7,800㎡の畑で、  
ひまわりを1,470kg  
収穫した結果



## 3 開花

花壇ではなく、広い田んぼでひまわりを植えるのは初めてでした。見るのが楽しみです。  
(伊予高生の皆さん 52人が参加)



## 1 種まき

ひまわり油を使った給食



ひまわり油を使用した  
松前バーガー・サンド



車の燃料として活用

## 6 資源化

食用油で使用後  
車の燃料へ



## 4 刈り取り



苗を植えるのは楽しかったよ。  
花が咲くのは楽しみ。見に行きます。  
重松奈菜子ちゃん=中川原=



## 2 定植

中川原地区では未就学児から大人が一丸となって約1万2千本を、東古泉地区では伊予高生も参加して約1万6千本の苗を、一つ一つ丁寧に植えていきました。

ひまわりを油に変えて、地球に優しい資源へ

種から資源を生み出す  
本年度も、5月下旬に種まき作業、6月に定植作業を行い、栽培をスタートしました。植えた後も、雨のときには排水し、除草剤をまくなど配慮が必要です。こうした苦労の後に、多くの人が楽しみにしている花の開花を迎えます。  
花を楽しんだ後は、ひまわりを収穫して搾取し、食用油として活用。保育所の給食、たわわ祭での松前バーガーや東古泉地区の文化祭など、さまざまな場面で使用しています。さらに、その使用済み油は、バイオディーゼル燃料に

うに、苦勞も多くありました。しかし、機械も導入しながら活動を続け、平成18年からは町からバイオマス事業の委託を受け栽培を行っています。東古泉地区でも、平成19年からバイオマス事業を開始。当初は想像以上の栽培の難しさに苦労しましたが、農協や地元農家の協力をはじめ、地域住民や伊予高生が一体となってバイオマス事業を続けています。

「みんなの協力があるからこそ活動は続けていけます。こういった機会があることで、元々住んでいた人と、よそから引越してきた人が交流することができています」と本田区長。また、バイオマス事業をきっかけに美化意識が高まり、長尾谷川の「愛・リバー活動」が始まった東古泉地区でも、稲垣昂規区長が「定植作業も多くの人が参加してくれました。共同活動が強い地区でありたい」と話します。  
今後ひまわりは、地球に優しい資源を生む種として、地域を育てる種として、私たちが成長するきっかけを与えてくれます。

精製し、公用車などの軽油代替燃料に利用しています。  
町の花「ひまわり」は、美しい景観を守り農地保全を図るほか、油に生まれ変わって私たちの住む環境をよりエコなものとしてくれているのです。  
ひまわりが地域も育てる  
地域でひまわりを育てる中で、地域の協力体制も育ってきているようです。  
「みんなの協力があるからこそ活動は続けていけます。こういった機会があることで、元々住んでいた人と、よそから引越してきた人が交流することができています」と本田区長。また、バイオマス事業をきっかけに美化意識が高まり、長尾谷川の「愛・リバー活動」が始まった東古泉地区でも、稲垣昂規区長が「定植作業も多くの人が参加してくれました。共同活動が強い地区でありたい」と話します。

ひまわりと  
共にその2

## ひまわりを生かす 「バイオマス推進事業」

ひまわりは、見たり育てたりすることで、花を楽しむだけではありません。当町では、中川原と東古泉の2つの地区がひまわりを活用することで、地球温暖化防止や農地保全を図っているほか、美しい景観を守ろうと活動しています。

地球に優しいバイオマス

バイオマスは、動植物から生まれる有機性資源のことをいいます。この資源は、循環利用が可能で、二酸化炭素を増やさず、地球に優しい資源です。

「えひめバイオマスプロジェクト」のモデル町に指定された当町では、バイオマス推進事業の一つとして、ひまわりから油を抽出して資源に活用する事業を行っています。

地域で行うバイオマス

この事業を行っているのは、中川原地区（農業生産組合と東古泉地区です。両地区とも、地域住民などが協力し合い、町の花を活用した地球に優しい暮らしを進めています。

中川原地区では、20年以上前から休耕田を活用したひまわりの栽培を開始。「当初は手で摘んだり、南予まで油を搾りに行ったりしていました」と本田啓三区長が話すよ

## ひまわりと生きる

ひまわりは、自然とのかかわりを生み、ひまわりのような心を育て、私たちの生活の中に生きています。

## 中川原ひまわり祭り

憩いの場を知り  
自然に親しむ

7月26日⑥ひよこたん池公園で開催



ひまわり祭りは、平成12年から続く中川原の恒例行事です。ひまわり栽培をきっかけに「ひまわりは町の花、ひよこたん池は憩いの場」をテーマに祭りを始めました。当日は、子どもから大人まで各々に役割を分担。参加しやすい環境をつくり、交流を深めています。それだけではありません。「祭りでは、鉢でなく自然の中で成長したひまわりの写真大会や、水路を利用して魚のつかみ取り大会などを行います。祭りを通して自然を知ってほしい」と本田区長。さらに、「もっと地元公園を地元の子どもたちが遊ぶ場として利用してほしい」と話します。憩いの場を知るきっかけとして、ひまわりなど自然に親しむ場として、楽しむことができる「ひまわり祭り」に、皆さんもぜひ参加してください。

## ひまわり少年少女合唱団

力強く成長しながら  
明るく元気な声をみんなへ届ける



町内の小中高生19人が所属する「ひまわり少年少女合唱団」。昭和51年に設立し、町花制定に伴い「ひまわり」と改名した伝統ある合唱団です。月3回ほどの練習を行っています。ひまわり合唱団。「明るい歌が好きだから、たくさん歌いたい」と話すのは、弓立真子ちゃん。出作です。その言葉の通り、練習部屋は、ひまわりのように明るい元気な声でこたえます。



④練習風景 ⑤本番は、ひまわりをイメージさせる制服を着用して歌う

には、音楽交歓会などの町行事をはじめ、県民文化会館などの大きな会場で一般のオペラに出演するなど、さまざまな披露の場が用意されています。「オペラでは叱られることもありますが、それで成長してほしい」と國廣先生。子どもたちも、なかなか経験できないオペラへの出演は、楽しみの一つです。これからは「ひまわり」の名前の通り、さまざまな挑戦をして力強く成長しながら、明るく元気いっぱい歌声を届けます。



町の未来を象徴する「ひまわり」。地球に優しい資源、美しい景観づくりや地域の交流を深めるものとして生かされるほか、団体の名前に使われて親しまれ、ひまわりのような心を育てるなど、生活のさまざまな場面で息づいています。町の花「ひまわり」は、町民の花「ひまわり」でもあるのです。だから、きっと私たちがひまわりをもっと知ること、まちの未来は、さらに明るい、さらに力強いものとなるはずですよ。